

農林水産省は8月、棚田地域振興法に基づく指定棚田地域として、石墨棚田（石墨町）を指定しました。県内の棚田の指定は初めて。薄根地域ふるさと創生推進協議会（山口耕会長）は、棚田と地域資源を生かした地域おこしに取り組んでいます。

県内初の振興法指定 石墨棚田



稲の切り口から生えてきた「ヒコバエ」と呼ばれる新芽

ISHIZUMI TANADA

ホタルも乱舞 日本の原風景を残す仕組みとは



棚田の発展オーナーに感謝

山口耕さん -石墨町-

放棄地だった棚田の整備を進めて5年。振興法指定はうれしいと同時に、ようやくスタートに立てたと身が引き締まる思いです。初めてオーナーを募った3年前は8組で、現在は26組と毎年協力者が増えて感謝です。棚田の良さを広く知ってもらえるよう、活動の継続や新たな取り組みに挑戦します。



薄根地域ふるさと創生推進協議会
公式YouTube



同会は毎年、県内外から棚田オーナーを募り、田植えや収穫といった稲作体験の場を提供するなど、地域外から棚田維持に向けた協力を得る仕組みを構築しています。

9月に行われた稲刈りでは、20家族計76人が参加。階段状に並ぶ田んぼに実った稲穂を刈って束ね、はさがけまでを体験しました。参加者は「稲刈りは初めて。昔の暮らしが想像できた」と、汗を流しました。昼食は地元産の新米と豚汁など楽しみました。

今春、棚田は同省の「つなぐ棚田遺産」にも認定。ツアーバスの集客も目指し、新たな田んぼの整備を始めました。ホタル鑑賞会やみそづくり体験も人気で、今冬にはイルミネーションのイベントを初めて開く予定です。